

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

## 平和を実現する者として

管区事務所総主事 司祭 ヨハネ 相澤 牧人

聖書を熟読するとき、そこから聞こえてくるイエスの声は、「平和を生きよ!」ということではないかと思えます。そしてこれは真の宗教ならばどれにでも共通することではないかとも思います。さらに、私たちにとって8月を迎えるとき、その声はいっそう大きく聞こえてはこないでしょうか。

イエスは「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」と教えられています。平和を実現することであって、平和を愛すると言われていない所にその“深み”があるのだと思います。平和は実現するものであり、創り出すことであり、現実化することです。

そこで思うことは、誰が実現するのかということです。明らかにそれは「私たち」です。ここに人間の素晴らしさがあるのではないのでしょうか。

しかし、その人間は恐ろしいものにもなるのです。平和を破壊するものにもなるのです。

このことを思うとき、私はいつも二つの言葉を思い出します。ひとつは沖縄の平和祈念資料館に掲げてあるものです。

戦争をおこすのは 確かに 人間です

しかし それ以上に 戦争を許さない努力のできるのも 私たち 人間 ではないでしょうか

もうひとつは、教皇ヨハネ・パウロⅡ世が広島に来訪されたときに語られた平和アピールの一節です。

戦争は、人間の仕業です。

戦争は、人間の生命の破壊です。

戦争は、死です。

これらの言葉は、私たち人間ができることを明確に教えてくれているのではないのでしょうか。

そして、平和を実現していく時に、もうひとつ心に刻み付けておかなければならないことがあります。それは「歴史は繰り返す」と言われる言葉ですが、それを正確に訳すと「過去を記憶出来ない者は、その過去を繰り返す運命を負わされる。」

## □会議・プログラム等予定

(前回報告以降追加  
および7月25日以降)

### 6月

30日(火) 正義と平和・憲法プロジェクト

### 7月

9日(木) 正義と平和・憲法プロジェクト作業部会

14日(火) 渉外主査会

17日(金) 正義と平和・憲法プロジェクト作業部会

24日(金) ~25日(土) 日韓聖公会青年セミナー事前学習会(名古屋学生青年センター)

27日(月) ~28日(火) 文書保管委員会および作業会

27日(月) 正義と平和・憲法プロジェクト作業部会

27日(月) 日本聖公会宣教150周年記念プログラム実行委員会

29日(水) 宣教150周年記念礼拝実行委員会「ゲスト担当部会」

30日(木) 礼拝委員会

30日(木) 人権担当者会(大阪教区)

### 8月

6日(木) 青年委員会

7日(金) 正義と平和・憲法プロジェクト作業部会

13日(木) ~18日(火) 日韓聖公会青年セミナー2009(韓国江原道華川及びソウル)

17日(月) 宣教150周年記念礼拝実行委員会

22日(土) セクシャル・マイノリティについての公開学習会(大阪聖パウロ教会)

31日(月) 宣教150周年記念プログラム実行委員会「シンポジウム準備会」(立教大学チャペル会館)

### 9月

4日(金) 主事会議

4日(金) 聖公会・ルーテル教会協議会

7日(月) ~8日(火) 文書保管委員会および作業会

(次頁へ続く)

というようになるのだそうです。

日本は、あのつらい戦争の体験からそれを昇華し、尊い経験として戦争を放棄することを決断し、日本国憲法を定めたにもかかわらず、それを変え、再び戦争ができる国にしようとしている現実があります。キリストに生かされている私たちは、平和、いのちを尊ぶ社会を実現していかなければならないのではないのでしょうか。

そのような中で、教会は政治問題に関わるのか、と批判する人もいます。教会には様々な人が集まっている、ひとつの主義を押し付けるのか、と言う人もいます。

教会はすべての政治問題に関わるというわけではありません。「いのち」に関わることには、イエス・キリストへの信仰から黙っているわけにはいかないのです。

ある修道士の経験からひとつの意味深いことが教えられます。「修道者はお祈りさえしていればよい、政治に口を出すな」と言われたそうです。それに対して、「お祈りをしていればよいというお祈りとは何なのだろうか。お祈りとは現実を信仰から見ることではないのか。私たちキリスト

者は現実をイエス・キリストの福音に照らしてみることで、キリストが私たちに何を語っているのかを聴き、このように生きなければならないと信念を持つことだと思う」と言われました。

今年もまた、意味深く、思いを巡らすことが多い「8月」を迎えます。平和を生きよ、と私たちに語りかけるイエスの声を聴き取り、その実現へと向かって、それぞれの地で与えられている役割を担って行き、生きたいものです。

(前頁より)

8日(火) 宣教150周年記念プログラム実行委員会「夕の祈り」打ち合わせ会

10日(木) 財政主査会

22日(火) 宣教150周年記念プログラム(立教大学)

23日(火) 宣教150周年記念礼拝(東京カテドラル聖マリア大聖堂)

#### <関係諸団体会議等>

7月28日(火) 日本キリスト教連合会常任委員会・定例会(日基教団、西早稲田)

8月19日(水)～21日(金) 第52回聖公会関係学校教職員研修会(横浜)

9月2日(水) NCC分かち合い委員会(NCC、西早稲田)

9月4日(水) NCC負担金検討委員会(NCC、西早稲田)

9月11日(金) 生野センター理事会

それに重ね合わせて、「沖縄戦の実相にふれるたびに、戦争というものはこれほど残忍で、これほど汚辱にまみれたものはないと思うのです。この生々しい体験の前ではいかなる人も戦争を肯定し、美化することはできないはずだ」という沖縄平和祈念資料館の展示むすびのことばにも耳を傾け、平和の実現の構築、そしてその継続へと歩み続けてまいりたいものです。

#### □常議員会

第57総会期第6回 2009年7月1日(水)

1. 社債償還方法変更承認の件
2. 「大韓聖公会をパートナーとする宣教協働者招聘事業実施要領」追加事項承認の件
3. 裁判員制度についての聖公会の対応について(懇談)

次回及び次回

10月14日(水)、11月25日(水)

#### □主事会議

第57総会期第12回 2009年7月6日(月)

主な協議事項

1. AC環境ネットワークの環境担当者窓口設置に関して  
正義と平和委員会より、岩城 聰司祭を窓口とするとの報告を受けて、ACOに通知することとした。
2. プロテスタント宣教150周年募金に関して  
目標額4900万円に対して現在1500万円不足しているとのアピールがあったので、応答することとした。

## 3. スリランカの援助に関して

現在、スリランカでは、政府側(多数派シンハラ民族)がタミール人掃討をはかっており、26万人が難民化している。スリランカ聖公会クルナガラ教区主教よりACOを通して緊急アピールがあったので、これに応えることとした。

次回以降の会議

9月6日(月)、10月5日(月)

## □各教区

## 中部

- ・ 聖職按手式 7月20日(月)10時半 松本聖十字教会 執事按手 志願者: 聖職候補生 フィデス金 善姫

## 神戸

- ・ 広島平和礼拝2009 ともに学び、行動し、祈ろう 8月5日(水)～6日(木) 会場: 広島復活教会ほか 目的: 1. 原爆の悲惨さ・愚かさを、次世代を担う人たちに伝える。2. 聖書にある「主の平和」を学ぶ。3. 日本聖公会に属するキリスト者としての「平和」

を考える。 主な行事予定: 被爆体験講演(東謙吉さん)、祈りの集い、平和行進、平和祈願ミサ、原爆犠牲者追悼聖餐式

## 九州

- ・ 「平和を考えるプログラム」—長崎に立つ2009夏— 8月8日(土)～10日(月) 会場・宿泊: 長崎聖三一教会 参加資格: 高校生以上

## 横浜

- ・ 夏期礼拝音楽研修会「チャントの魅力 クリスマス礼拝を題材に」 講師: 那須輝彦(青山学院大学教授 西洋音楽史) 8月26日(水)～28日(金) 清泉寮(山梨)



† 逝去者 霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

ヨハネ秋江孝吉(管区審判廷員、北関東教区) 2009年3月24日(火) 逝去。(94歳)

### 各教区財政担当者連絡協議会を開催いたします

2年に1回の各教区財政担当者連絡協議会を2009年12月12日(土)に管区事務所で開催いたします。この協議会は、来年5月の日本聖公会第58(定期)総会に提出する2010年・2011年度の管区一般会計予算案に各教区のご意見が反映される重要な協議会です。また、この協議会は各教区の問題等を討議することになっています。

7月10日付で各教区にこの連絡協議会時に使用するアンケートを送付し、8月31日(月)までにご回答くださるようお願いしております。

主な内容として

- ① 教役者給与モデル

- ② 教役者福利厚生・待遇
- ③ 教役者の副収入
- ④ 教務所・教区事務所職員福利厚生・待遇
- ⑤ 大斎克己献金
- ⑥ 教区の財務・財政
- ⑦ 今回の会議で、取り上げて欲しい協議事項
- ⑧ 管区に対するご希望、ご質問、その他となっております。

今回のアンケートは、2年前の各教区担当者連絡協議会でも話し合われたことも含まれていますが、今回は、これらの問題点を少しでも解決できればと思っております。

(管区事務所 財政主事 尾崎茂雄)

## 《人 事》

## 東京

<信徒奉事者認可> 2009年4月1日付  
(渋谷聖公会聖ミカエル教会) 山田益男

<信徒奉事者認可および分餐奉仕許可>2009年4月1日付  
(渋谷聖公会聖ミカエル教会) 大野直人、布川悦子、守山隆子、山田 奨

## 横浜

<信徒奉事者認可> 2009年6月1日付  
(市川聖マリヤ教会) クライド宮下栄壺

## 「非武装の勧め」 - 2009年沖縄週間／沖縄の旅 報告 -

正義と平和委員会沖縄プロジェクト 司祭 マルコ柴本 孝夫

去る6月19日から22日まで、「命どう宝(ぬちどうたから)～本当に武力は必要か?～」のテーマのもと、2009年沖縄週間／沖縄の旅を開催しました。このプログラムは、日本聖公会総会決議「沖縄週間の設置」(日本聖公会の全教区・教会が沖縄の現実に思いを寄せ、私たち自身が主の平和を求めて祈ることを目的とする)に基づき、沖縄教区と正義と平和委員会が沖縄の歴史及び現在を学ぶ旅を企画、全国からの参加者を迎えて実施しています。

通算15回目となる今回は、北海道、東北、東京、横浜、中部、京都、大阪、神戸、九州の各教区から34名。さらに地元沖縄教区よりほぼ同数の合計60名を越える参加者を得て行うことができました。

主な内容としては、初日は那覇市内ウォーキングと称し、壺屋焼物博物館を見学し、平和通り、公設市場などを散策。夜は沖縄教区センターにて池住義憲さんによる基調講演。2日目は朝から、名護市・辺野古で粘り強く取り組まれている新基地建設阻止活動へ参加。夕方、名護聖ヨハネ教会にて分かち合い。そして教会分宿へ。3日目は各分宿先の教会で主日礼拝に参加の後、北谷(ちゃたん)諸魂教会に集まり、沖縄教区行事「慰霊の日」礼拝へ参加。寺

澤征一牧師の講演も聞きました。夜、小禄聖マタイ教会での参加者交流会。最終日は南部戦跡巡り、とくに南風原(はえばる)陸軍壕と旧海軍司令部壕を見学、その後解散といった流れでした。いつものことながら、4日間に渡る盛りだくさんの内容でしたが、中でも参加たちに強い影響を与えたものを挙げるとすれば、それは初日の基調講演と、2日目の辺野古訪問ではなかったかと思います。

基調講演を担当された池住義憲さんは、「イラク派兵違憲訴訟の『違憲判決について』。非武装の勧め」と題して話されました。冒頭、参加者への次のような問いかけから話が進められていきました。

「武装(軍事)／非武装(非軍事) - 『理想的』なのはどっち? 『現実的』なのはどっち? なぜ? 攻撃される可能性はどっちが高いか?

攻撃された場合、被害の『甚大さ』どっちが大きい? お金、どっちがかかる? 1回しかない人生あなたはどちらに賭けて生きますか?」

問いかけを受けた参加者たちからは、「武装している方が危ないよ、そんなのわかりきっていることだよ」という意見や、「誰が攻撃してくるといの? いったい」という声も聞かれました。そしてそれぞれが最後の、一回しかない人生、あ



あなたはどちらに賭けて生きますか? という問いを嘯み締めていました。普段、「現実的に『武装』しないと自国を守れない」との考えをよく耳にします。そんな意見に直面した時、この問いかけを一緒に考えていくことが、あらためて私たち自身の歩みを考えていく上でも、きっと重要な機会になりうると思われました。

次に、講演会の表題でもある「イラク派兵違憲訴訟の『違憲判決』」についての話を聞きました。この判決は、最終的に棄却となったものの池住さん達が訴えていた憲法判断に踏み込んだ61年目の画期的判決だったこと。また、判決文が「憲法9条1項に違反する活動を含んでいることが認められる」との言葉で締め括られた時、満席の法廷で静かなざわめきが広がり、すすり泣く声が聞こえたこと。それは訴えを起こした皆が望みうる最高の実質勝訴判決だったから、など話され、その時の感動が伝わってくるようでした。終わりに、「私達がこうした画期的判決を勝ち取ることが出来たのは、『訴えを起こした』から。」死ぬまでまだあと20年以上ある。まだまだこのような活動ができることが

楽しくてしょうがない、と生き生き語られました。

辺野古での新基地建設阻止活動では、美しい海を間近に見つつ現状についての説明を受け、座り込みに参加しました。最近では座り込む人たちの数こそ減少している様子ですが、それでも地元の人たちが核となり、粘り強く継続されています。途中、辺野古の海を含む大浦湾一帯を一望できる「じゅごんの丘」へと出かけた人たち、またボートに乗り実際に海へと出て、美しいサンゴ礁など見てきた人たちもいました。いずれにしても、辺野古の海の美しさ、自然の豊かさを堪能したひとときでした。

辺野古での締め括りは、今年の全国青年大会と同様、浜に集まり平和のための祈りを捧げました。また阻止活動に永らく携わってこられた地元のおじいの一人、嘉陽さんのメッセージも聞くことができました。命を育てくれた宝の海を守るため、また子や孫たちの未来に、基地ではなく平和な世界を残すために、まさに「非武装」での活動を続ける人々の姿に触れたことは、参加者たちのこれからの歩みにきっと大きな影響を与えたのではないかと思います。

辺野古の浜での祈り  
(撮影・小西貴士)



## 「沖縄の旅」に参加して

早川 裕美 (清里聖ヨハネ保育園)

初めて沖縄の地を訪れ、観光地として有名なだけでなく、その裏側の現実に触れた4日間と

なりました。辺野古地区での座り込み活動にも参加させていただきました。新基地建設阻止の活動がもう何年前から行われ、そして今現在も闘っている…。なぜ米軍は基地を建てたがるのか…。そしてなぜ賛成側の方々もいるのか…。どうして闘うのか…。話を聞いていくうち

に、いくつもいくつも疑問が生まれました。

ジュゴンの見える丘に行ったとき、景色が本当に綺麗でした。綺麗な海って本当に青いなあと思いました。この綺麗な海の上をいくつもの軍用機が横切り、この景色には相応しくない!! どうしたらこの海を守ることが出来るのだろう…と、そんなことを思いました。ジュゴンがいつまでも暮らせる場所としていつまでも、あの青い海のままできて欲しいと思います。あの丘で「ジュゴンを守ろう!!」と、みんなで誓ったあの言葉はずっと忘れません。

そして戦闘機のあの爆音には、本当に驚きました。体まで響くような…とても悲しい気持ち。戦争をしない日本には必要ありません。多くの祈り、願い、想い…すべてが叶い、争いの無い沖縄になりますように…。

私は山梨県の清里聖ヨハネ保育園で保育士をしています。沖縄から帰ってきて子どもたちが次々と「先生! おかえり~! 沖縄はどうだった?」「何食べてきたの?」「温泉入った?!」などと話しかけてくれました。行く前に子どもたちに少しだけ、戦争の事について話したり、そして私が沖縄に行っている間も子どもたちは平和についてのお祈りをしていたのでしょう。一人の男の子が「先生! 戦争はしてた?」と、聞いてきました。私は一瞬、言葉を失いましたが「戦争はしてなかったよ、でも戦闘機がすぐ近くを通ったり、基地があったり、先生は少し怖かったし

悲しい気持ちになったよ」などと伝えました。

この未来ある子どもたちは本当に、キラキラ輝いて宝物だと思います。その子どもたちに将来、何が残せるのだろうか。決して悲しい世の中ではなく、明るい未来であってほしいと思います。

この4日間は本当に充実し、平和についていろいろと考えることができました。どの方々も本当にあたたかく迎え入れて下さり、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



ヨハネ 出町 勇人 (札幌聖ミカエル教会)

今回、初めて「沖縄の旅」に参加しました。参加のきっかけは、昨年開催された「全国青年大会」でした。その最初のグループセッションで武装と平和とのかかわりについて私が考えたのは、「他国から攻め入れられる可能性がある以上、自衛のための戦力を保持することはやむを得ない」でした。それがそうではないかもしれないと気づきかけたところで終わった感じがしていましたので、今回の沖縄の旅で、もう一度辺野古や沖縄戦の跡を訪ねることで、もう一歩進ませてもらえるのではないかと期待したのです。

今回、2日目と4日目でそれを追体験することができました。おじい・おばあの平和への思い、

生き地獄のような戦時中の状況。目にすること、耳にすることはさほど変わらないはずなのに、何も知らずに訪れた昨年と、気づきかけた今年とでは、私の中ではずいぶん印象が違ったような気がしました。いつ何時、平和が脅かされるかもしれない現実を実感し、それは武装によって守られるのではないのだということを強く意識するように変えられたからかもしれません。



また1日目では、やちむんで知られる壺屋の歴史に触れた後、画期的とされるイラク派遣違憲判決について、池住氏からの講演を聞きました。そこで知ったのは、粘り強く闘わなければ国を動かさないという冷徹な事実、そして、その闘いの裏打ちがあるからこそ、多くの人々を共感に導くことができるということでした。3日目の主日礼拝に続く「慰霊の日」礼拝で、参加者が一つに平和への祈りを献げることができた

のも、素晴らしい経験でした。平和について祈れなかった自分が、祈れるようになりました。

梅雨空の合間に見せる辺野古のエメラルドグリーン海、沖縄教区の皆さんや全国各地の教会の人たちとの交わり…心に残ったことは書ききれません。また皆さんと沖縄で会えることを楽しみにしています。



## 韓国スタディ・ツアーに参加して

東京教区 司祭 前田 良彦

今回のスタディ・ツアーに私はカパティランのカウンセラーの一員として参加しました。外国人労働者や家族に対する働きを見ることがとスタッフの働きを学びたいという願いがあったからです。参加者は10教区から12人（聖職7、信徒5）、管区宣教主事（団長）とスタッフ3人、現地から参加の2人を加えて総勢17人でした。ソウル市内の西大門駅近くのホテルに滞在しました。南揚州（ナムヤンジュ）教会にある外国人勤労者センター、蘆原（ノウオン）、奉天洞（ポンチョンドン）の「ナヌメチップ（分ち合いの家）」などを訪問、それらを中心に展開された活動についてお話を聞きました。フードバンクの「おにぎりコンサート」（PRと資金集めの活動）、野宿者のための支援・宿泊施設、タシソギ（再び立つ）・センターなどの活動に少しかかわることができました。

今回の社会宣教という視点から野宿労働者、外国人労働者支援の現場を学ぶというスタディ・ツアーは、ソウル教区のきめ細かい働きと

その規模の大きさや、行政との協働作業を見ることができたと思います。また貧しい人々に対する多様で重層的な働きをみたときに、多くの参加者が驚かれたのと同じような驚きを私も持つことができました。社会宣教と言う多様な働きの現場にいる神父たちの生き生きとした姿は感動的でありました。昔からの友人である神父たちが相変わらずユーモアを忘れずに、日本から



タシソギ・センターでの夕食

の参加者たちをもてなしてくれました。その働きに携わる神父やスタッフたちを支えている信仰と神学は一つの地域で共同体を形成するというものであったのではないかと感じています。

一つの課題に取り組むことによって次々と必要とされる働きを目指していました。子供たちのための勉強部屋、家族や社会から疎外されている若い人たちを支援する活動や、障がい者のための施設を行政とタイアップして実現していく根気強い働きを目の当たりにすることができ



ました。

普段、自分の教区や教会で何をしたら良いのかと悩む教会にいる人々への大事なメッセージを与えてくれたのではないのでしょうか。日本と韓国という国の違いがあるのですが、教会が目指さなければならないものは何かを考える大きなヒントを与えてくれたとも思います。

帰国後、「聖公会手帳の後ろにある聖公会関係の社会福祉や幼稚園・保育園やその他の働きを社会宣教の視点で見る必要があるのではないか?」という同僚の指摘に、なるほどという思いに至りました。日本聖公会も宣教150周年の歴史の中で社会宣教を教会も信徒も頑張った姿があるのです。しかし教会はその社会宣教の業を離してしまった歴史でもあるのでしょうか。今再び、この時代の中で社会宣教とは何か、そして私たちは何が出来るのかを考える必要があるのでしょうか。そのための良いチャンスの韓国スタディ・ツアーでもありました。このツアーは毎年実施されます。来年は各教



区から違った方々が参加者となることでしょう。その参加者が増えていくことでそれぞれの教区には社会宣教を実感する教役者・信徒が増えることでしょう。そしてそれぞれの教区にある社会宣教の実践である各施設との協働を考えることも出来ることでしょう。そのような夢を思いながら今回のスタディ・ツアーに感謝しながら、また働きを模索してまいりたいと願っております。(聖マルコ教会牧師 カパティラン カウンセラー・運営委員)

## ●宣教150周年記念礼拝 短信

日本聖公会宣教150周年記念礼拝実行委員会決定した趣旨に従い、日本聖公会誕生に関与した歴史的な意味を持つ諸教会・団体のリーダー、アジア地域にあって日本聖公会と深い関わりを持つ管区・教区のリーダー、WCC及びCCAのリーダーに記念礼拝への招待状をお送りしたところ、以下の方々から出席の回答を頂いた。

ローワン・ウィリアムズ・カンタベリー大主教、米国聖公会ジェファーツ＝ショーリ総裁主教、USPG総主事ドー主教、CMS総主事ドーキン司祭、ユーダル司祭(ランベスパレス聖公会関連主事)、パップワース姉(同広報主事)、ステイブンス主教(英国聖公会レスター教区)、グレゴリー姉(ランベスパレス通訳)、エング氏(米国聖公

会アジア太平洋地域担当宣教主事)、クオン主教(香港聖公会首座主教/香港島教区)、ツァン司祭(東カウルーン教区、ツイ主教の代理出席)、マレクダン主教(フィリピン聖公会首座主教)、タクロバオ主教(フィリピン中央教区)、パチャオ主教(同北中央教区)、ライ主教(米国聖公会台湾教区)、ハーフト主教(オーストラリア聖公会パース教区)、ヴン主教(東南アジア聖公会サバ教区) 夫妻、ウー主教(ミャンマー聖公会首座主教/ヤンゴン教区) 夫妻、ユン主教(大韓聖公会首座主教/プサン教区)、キム主教(ソウル教区) 夫妻、クオン主教(テジョン教区) 夫妻、大韓聖公会管区総主事キム司祭、1970年代からおよそ30年間日本聖公会首座主教秘書としてお手伝いくださったハナマン氏(元米国聖公会宣教師)。

日本聖公会管区事務所ホームページ: <http://www.nskk.org/province/>  
 ☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメールでお寄せください。  
 comm-sec.po@nskk.org 広報主事(鈴木) 宛て